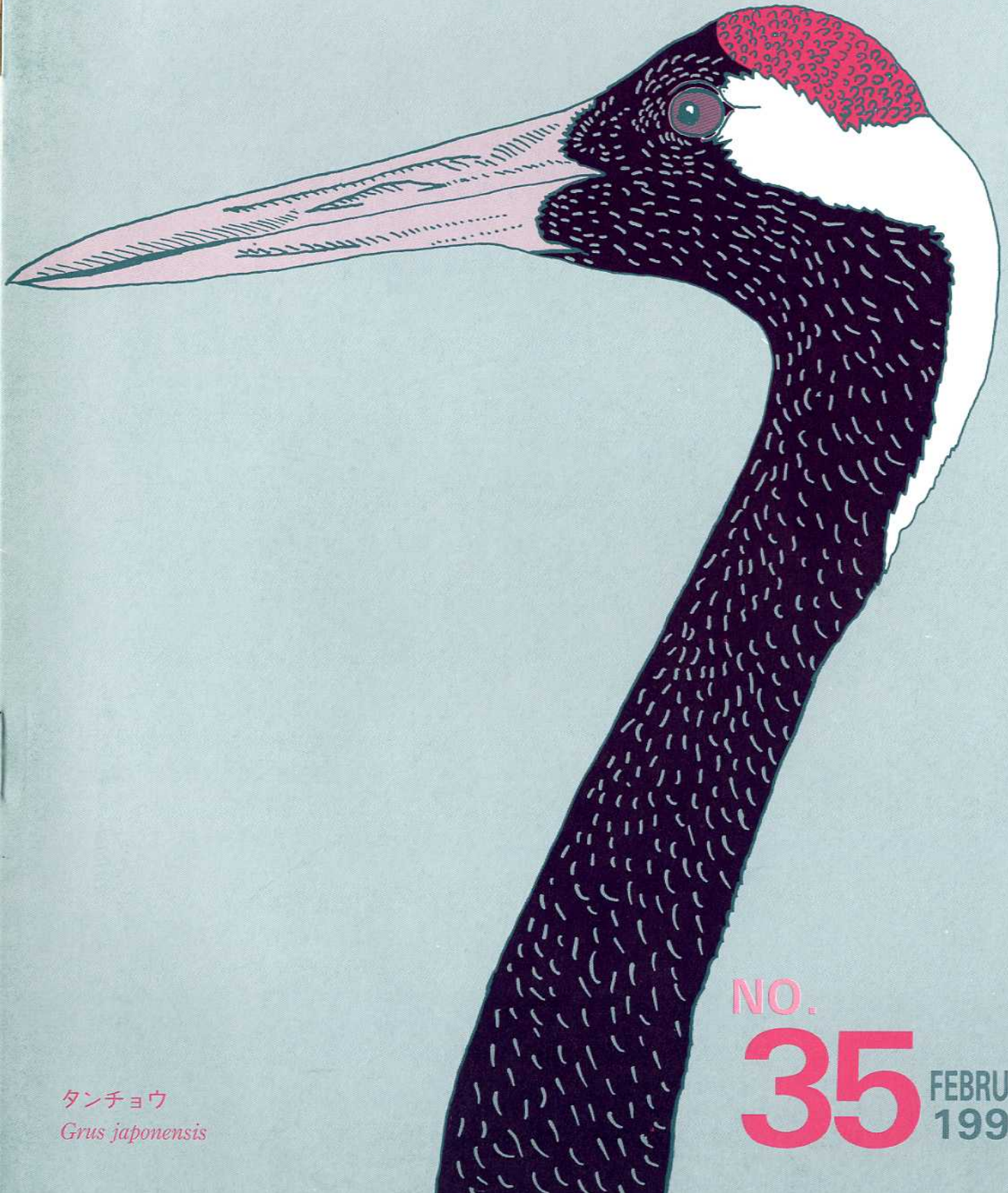




あさひやまどうぶつえんニュース  
ASAHIYAMA ZOO NEWS

# モユク★カムイ

☆モユク・カムイとはアイヌ語で「エゾタヌキ」のことです。



タンチョウ  
*Grus japonensis*

NO.

35

FEBRUARY  
1994





### 表紙のことば

今年の冬は雪が多く春の開園準備作業のたいへんさが今から思いやられる。氷割りの時にタンチョウにお手伝いをたのもうかしら。りっぱな鶴嘴(ツルハシ)持参でね。

### 目次

- 2 ほっと ひとPhot -
- 3 新・動物解析考 昔話の動物たち
- 4.5 シリーズ「動物ってなんだろう？」  
第6回 「鳥の仲間」  
その4 スズメの仲間
- 6.7
- 8 最近の動物園事情  
Vet News (動物病院から)
- 9 飼育研究レポート  
-ヒヨドリの繁殖-
- 10 ゲンちゃんの追求コーナー  
-カバはなぜ水の中が好き?-  
クイズ
- 11 飼育日誌・お知らせ



新・どうぶつ解析考

## おはなし

浦島太郎

不思議な“おはなし”である。いじめられている亀を助けて、亀の背に乗り海の底にある竜宮城へ。美しい乙姫様を紹介され、さんざ遊んだ挙句、帰ってきたら知らない人ばかり。おみやげの玉手箱を開けたとたん、あっという間におじいさん。奇想天外な話である。

この話には歴史的背景がある。『日本書紀』雄略天皇22年7月条に丹波国余社郡筒川(京都府与謝郡伊根町筒川)の浦島子が亀を釣り、逃がしてやった。翌日、船に乗った美しい女性が現れ、結婚して蓬莱山へ行った。と記されている。

そして、『水鏡』淳和天皇の条に天長2年11月、浦島子が帰ってきた・・・とある。

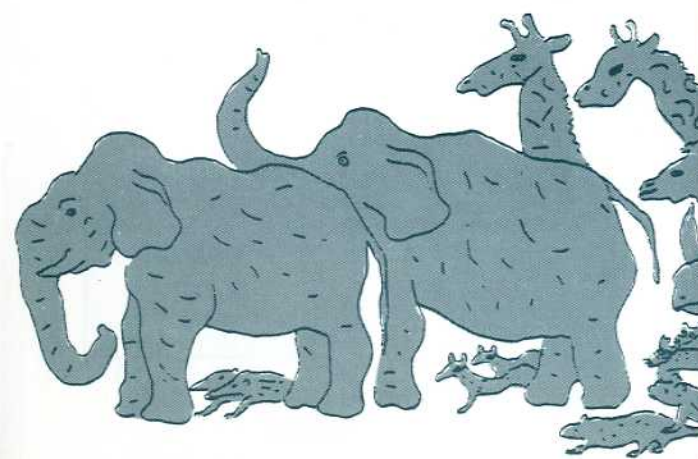
室町時代のお伽草紙には浦島太郎が釣った亀を助けて、現われた乙姫と船で竜宮城(遠い島)へ・・・玉手箱を開けた浦島は老人となるが、やがて鶴になり、浦島明神として祭られる。そこへ、乙姫様の亀もやってきて、一緒に祭られ、めでたし、めでたし・・・

さて、問題はこの亀である。日本海に現われるウミガメは、アカウミガメ、アオウミガメ、タイマイ、オサガメの四種類。そのうち日本で繁殖するのはアカウミガメのみ。浦島太郎を背中に乗せるのだから、この亀は、大きくなければならないはず。当然「オサガメ」を第一候補と考えたのだが、どうも昔の話を調べると“亀が変身して女性となり船で竜宮城へ行った”らしいので、この亀は普通にみられるカメ、すなわち「アカウミガメ」である。と考えるのが妥当か。

日本近海で普通にみられるアカウミガメだが、サイズは甲長1m、体重150Kgくらい。昔は2m、450Kgの大物もいたと言うから、おとなでも十分に乗れそうである。

ウミガメは産卵場所の破壊や、おいしい卵や肉美しい甲羅を利用するための捕獲により、世界的にその生息数は減少してきている。日本の海でウミガメの優雅に泳ぐ姿が、いつまでも見られることを祈りたい。

参考：浦島太郎の文学史  
協力：越前松島水族館





動物がなんだろう

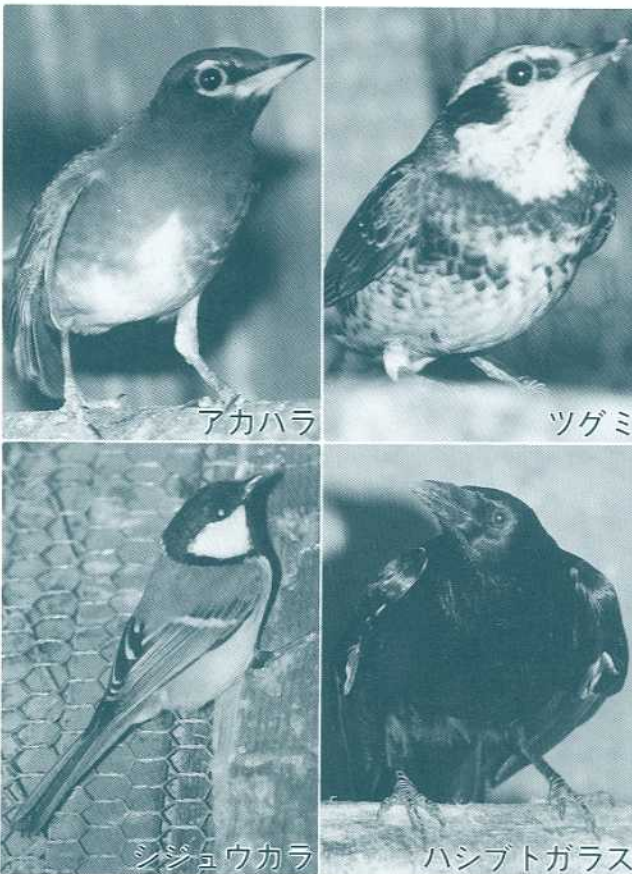
第6回 「鳥の仲間」

その4 スズメの仲間

冬は鳥たちの食べ物が少ない季節です。そんなとき、家の周りにバードテーブルを作ってやると、いろいろな鳥たちがそこへ集まってきます。そのほとんどがスズメの仲間（スズメ目）です。



スズメの仲間(スズメ目)



スズメの仲間 (スズメ目)

スズメ目の鳥は、きれいな声でよく鳴くものが多いので“鳴禽類”とか、ツバメやスズメの仲間なので“燕雀目”と呼ばれていました。一般的に小鳥と呼ばれているもののほとんどがこの仲間です。

鳥の中で最も繁栄しているグループ

地球上には現在、28目-約8600種の鳥が生息しています。そのうちスズメ目には約80%にあたる約5000種が記録されており、種類数も生息個体数も他のグループを断然引き離して繁栄している仲間です。体の大きさは小さい方ですが、その生活は海上を除くあらゆる環境に適応しています。5000種もあれば大きさや生活の仕方など違って当たり前なのですが、「目」という大きなグループで見ますと次のような特徴が挙げられます。

- ・あしがよく発達している。
  - ・木に止まるのがうまい。
  - ・よい声でさえずる(鳴管の発達)
  - ・巣を上手につくる。
- 食べものは動物質のものが多く、昆虫やクモ、カタツムリ、ミミズなどを好みます。また、果実や穀物を主食にする仲間もいます。

スズメ目の鳥はどのくらいいるか

記録されている種数は	世界では	62科	5160種
	日本では	28科	174種
	北海道では	23科	141種
	旭川では	20科	86種

旭川で記録されたスズメ目の鳥

科名	種名	科名	種名	科名	種名	科名	種名	科名	種名
ヒバリ	ヒバリ	ヒタキ	ノゴマ	ヒタキ	メボソムシクイ	ホオジロ	ホオジロ	アトリ	イスカ
ツバメ	ショウドウツバメ		コルリ		エゾムシクイ		ホオアカ		ナキイスカ
	イワツバメ		ルリビタキ		センダイムシクイ		カシラダカ		ウソ
セキレイ	キセキレイ		ジョウビタキ		キクイタダキ		シマアオジ		アカウソ
	ハクセキレイ		ノビタキ		キビタキ		アオジ		コイカル
	セグロセキレイ		マミジロ		オオルリ		クロジ		イカル
	ビンズイ		トラツグミ		サメビタキ		オオジュリン		シメ
	ヒバリ		クワツグミ		エゾビタキ		ユキホオジロ	ハタオリドリ	ニューナイスズメ
ヒヨドリ	ヒヨドリ		アカハラ		コサメビタキ		ミヤマホオジロ		スズメ
モズ	モズ		シロハラ	エナガ		アトリ	アトリ	ムクドリ	コムクドリ
	アカモズ		マミチャジナイ	シジュウカラ	ハシブトガラ		カワラヒワ		ムクドリ
	オオモズ		ツグミ		コガラ		ヤヒワ	カラス	ミヤマカケス
レンジャク	キレンジャク		ハチジョウツグミ		ヒガラ		ベニヒワ		ホシガラス
	ヒレンジャク		ヤブサメ		ヤマガラ		ハギマシコ		ハシボソカラス
カワガラス	カワガラス		ウグイス		シジュウカラ		オオマシコ		ハシブトカラス
ミソサザイ	ミソサザイ		エゾセンニュウ	ゴジュウカラ	ゴジュウカラ		ベニマシコ		
イワヒバリ	カヤクグリ		コヨシキリ	キバシリ	キバシリ		ギンザンマシコ		
ヒタキ	コマドリ		オオヨシキリ	メジロ	メジロ		アカマシコ		

参考 北の野鳥 (1980 山田良造)  
旭川の動植物 (1991 石川信夫)  
協力 旭川市博物館

**冠羽** 頭に特徴的な冠をかぶったような羽根がある。

**目** はっきりとした過眼線があり、サングラスをかけたみたい。

**からだ** 全体にふっくらとした感じ。

**食べ物** 木ノ実や果実。ナナカマド、ツルウメモドキなどを好む。

**渡り** 秋遅くシベリアから群れで渡ってくる。旭川は渡りの中継地。



キレンジャク

学名 *Bombycilla garrulus*  
英名 Waxwing  
全長 19cm

昭和53年「旭川市民の鳥」となる。  
旭山動物園では現在9羽を飼育しており、3年前から繁殖行動が観察されている。

**翼** 次列風切羽根の先端に赤いろう状の付属物がある。英名のWaxwingの由来。

**鳴き声** チリチリチリと、すんだきれいな細い声。

**尾** 短い。先端の黄色がよく目立つ。親戚のヒレンジャクは先端が赤色。

スズメをバードウォッチング

- ・頬に黒い斑
- ・顔は白
- ・大きさ 全長約14cm
- ・たくさんの群れで行動する
- ・翼に2本の白い帯

ではスズメと他のトリを比べてみると...

●大きさを比べてみる

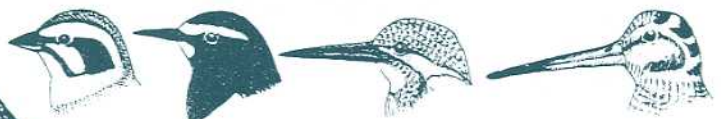


●尾羽の形は?



スズメはバードウォッチングの教科書。鳥の種類を覚えるには、見分けるためのポイントがいろいろあります。スズメは私たちの周りにいつもいる鳥ですので、最初はスズメからポイントを見る練習をしましょう。

●くちばしや顔の模様は?



●とまっているときの姿勢は?



●飛び方は?



●このイラストは「ブルーガイド 日本の野鳥」(高野伸二)を参考。



# 雪の上のマーク 動物たちのフィールドサイン

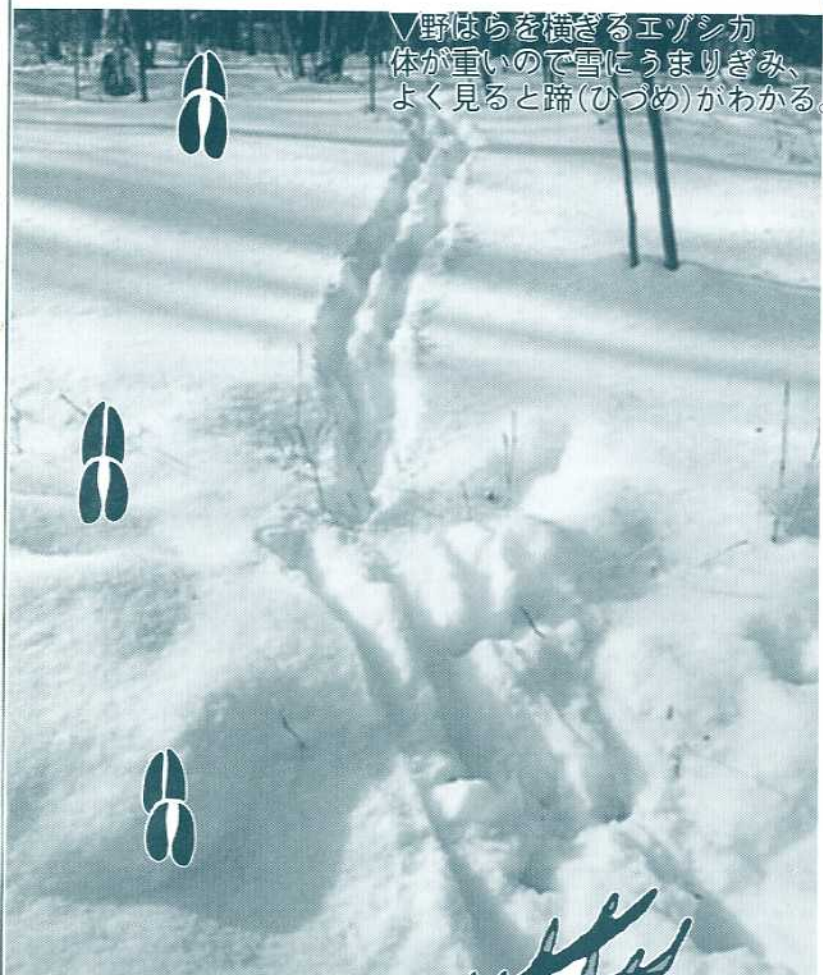
バードウォッチングをとおして鳥を観察する人が増えてきました。鳥は私たち人間の隣で生活しているので、それほど探さなくても見つけることができます。

ところが野生のけもの（哺乳動物）たちを見ることは、とてもむずかしいことです。その理由として次のことが考えられます。

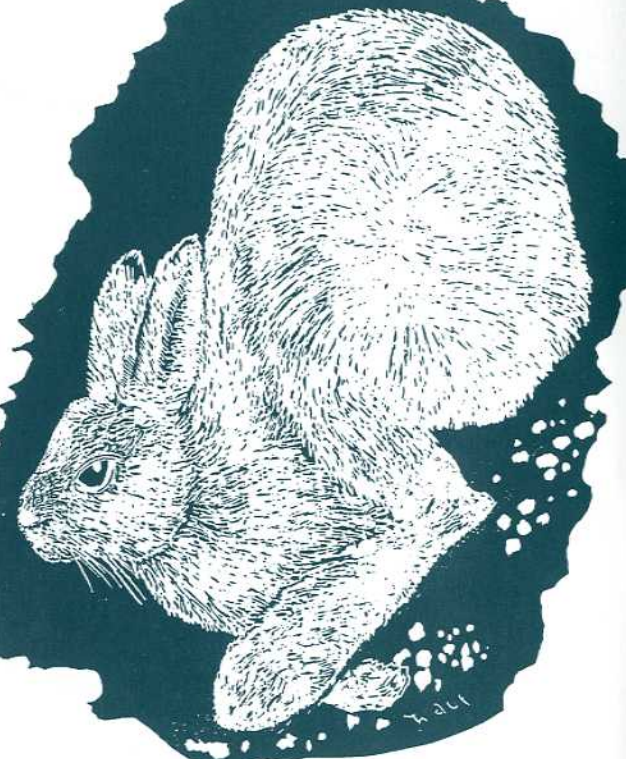
- ・けものほとんどは夜行性で暗くなってから活動する。
- ・鳥のように飛んで逃げるができないので、いつも身をかくしている。
- ・ほとんどのけものは人の生活から離れた森の中で生活している。

でも、けものが生きている印（マーク）を見つけることは、そんなにむずかしいことではありません。特に冬、雪の上には彼らの残した“あしあと”がたくさん残されています。

▽野はらを横ぎるエゾシカ  
体が重いので雪にうまりぎみ、よく見ると蹄（ひづめ）がわかる。



●エゾシカ  
近年よく見かけるようになった。郊外の畑、田、林、草地河原などへゆけば雪の上にちょっと深めの足跡が発見できる。群れで行動するので足跡も乱れがち。



●エゾユキウサギ  
4本一組の足跡は常にT字形になる。

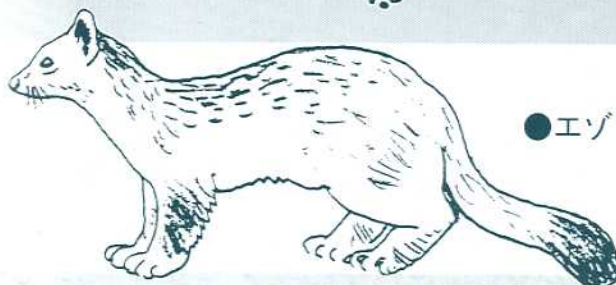


▲T字形のきれいな足跡。



▲行ったり来たり、乱れた足跡。エサを探していたのかな。

▽凍った川の上を自由に歩く。



●エゾクロテン

▽ジョギングかな？  
クロテンはなかなか出あうことはない。スキー場の林間を調べてみると発見できるかもしれない。



▲歩行の時はシャクトリムシのように歩くので、2個がすこしずれて並ぶ。

▲堅雪の時は足の裏もはっきりとわかる。思ったより大きい感じだ。

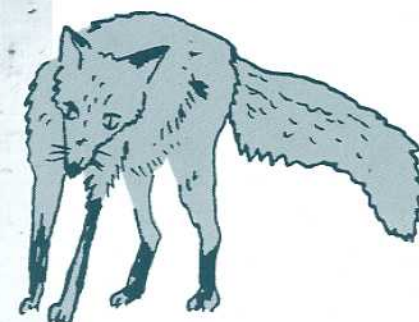
▽解けはじめた足跡。



▼前あしの上を後あしがまた踏むので、重なって見える。点々と一本の足跡。

北海道の雪の上はキタキツネの足跡がいっぱい。

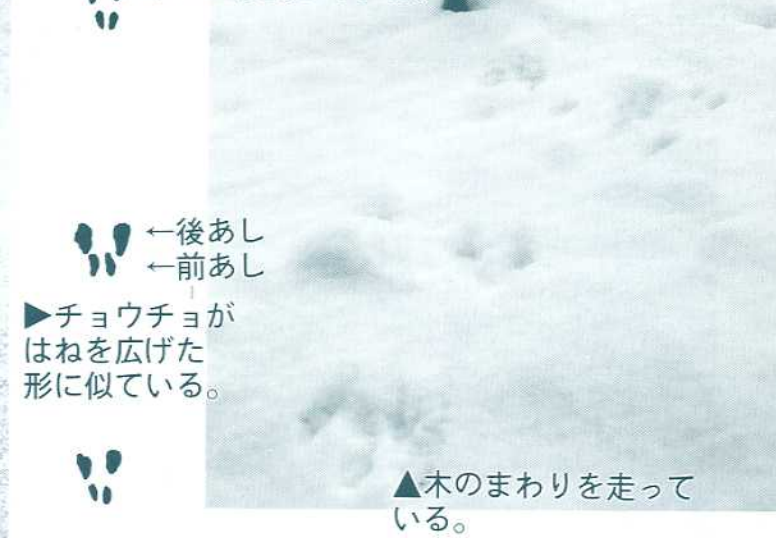
●キタキツネ



▶同じところを歩く。キツネの道ができる。



●エゾリス  
森や林にいくとかわいい跡が木から木へと移動している。



←後あし  
←前あし

▶チョウチョがはねを広げた形に似ている。

▲木のまわりを走っている。



しっぽの跡。

▶しっぽの跡がわかる。

●ノネズミ  
とても小さな足跡なのでよく観察しなければむずかしい。しっぽを引きずった跡がポイント。







### 動物園事情 -命を伝える-

“いのち”とはなにか？  
「生きているものは持っているが死ぬとなくなる」簡単な回答だが、改めて問われると答えようがない。最初に誕生した“いのち”はさておき、“いのち”は“いのち”からしか生まれない。

いま生きている生物は“いのち”のバトンタッチをするために存在している。“いのち”にはいろいろな「形」があり、動物・植物、脊椎動物・無脊椎動物、哺乳類・爬虫類など実に実にさまざまな形態である。これらは地球上で35億年もの長い時間をかけてつくられたものだ。もちろんヒトもその中のひとつの「形」である。

個体にそれぞれの命があるようにその「形」にも命があり、「形」の命がなくなったときを「絶滅」と言う。動物園にはごく一部だが代表的な“いのち”が保たれている。そして繁殖させてバトンタッチもできるだけ可能なようにしている。それは動物園が“いのち”を伝えたいからだ。

大切な命。「人の命は地球より重い」というような標語があるが、ヒトの命を守るために他の生物の“いのち”を犠牲にしてよいという考えはどうだろうか。

生物の世界はお互いに犠牲になりながら微妙なバランスを保っている。本当に大切にしなければならないものは、この“いのち”を育んだ地球の方ではないだろうか。



### 老 衰

動物園で飼育している動物は、一般に野生の状態のものより長生きします。安全な環境で、しかも餌を自分でとらなくても良いからです。野生の個体は、少し動きが鈍くなったり、歯が弱くなったりすると、捕食されたり、捕食できなくなって、死んでしまいます。人間で言う老衰まで生きている個体は稀でしょう。ところが動物園では前述の様な理由で、老衰になるまで長生きする個体がたくさんいます。先日死んだニホンザルの「雄一郎」は27才で、ヨボヨボでした。でも彼は他のサルみんなに慕われてとても幸せでした。サルの社会で体力のなくなった個体がそのまま群れの中で生活できるのは稀です。タイワンザルの「ピーター」もやはりヨボヨボですが、彼の場合は5年前に彼の長男に喧嘩で負けて、「もう俺は駄目だ」と生きる気力をなくしました。この時は長男を他の動物園にもらってもらい、復活しました。そして去年、今度は彼の次男に喧嘩で負けました。この時も次男を他の動物園にもらってもらいました。結局繁殖能力のある雄ザルはいなくなってしまい、「ピーター」とメス2頭になってしまいました。本当は「ピーター」をどうにかすれば良いのですが、1頭で別飼育したり、他の動物園に出すなどということは、先の運命を考えるととてもできません。

人間の社会は高齢化社会を迎えてどうすれば良いのか、と盛んに議論されていますが、動物園の場合も似たようなことがたくさんあって、頭を悩ませています。

### Vet. News -動物病院から-



### ヒヨドリ の 繁殖

ヒヨドリは全国各地に分布する鳥で、公園や神社など人家付近の林にすんでいます。冬期間はバードテーブルの常連でもあり、リンゴなどを置いておくと、毎日のように姿を見せます。ピーヨ、ピーヨと甲高い声で賑やかに鳴き、小さな群れで移動します。旭川周辺では真冬にもその姿が見られますが、大部分は秋に南方へ渡るものと思われます。

当園には北海道産動物コーナーといって北海道に生息する動物、特にフクロウ類を中心に小鳥やユキウサギ、エゾリスなど私たちの身近にすんでいる動物を飼育展示している施設があります。1992年にその一角にある小鳥のケージ内で、ヒヨドリが卵を1個産みました。ケージ内にはヒヨドリのほか、アカハラ、マミチャジナイ、ツグミなど数種類の小鳥が入っていますので、繁殖期にはトラブルが起こることがあります。

アカハラに発情営巣行動がはじまると、俄然アカハラが強くなり、他の鳥を追い回します。それが下火になると、今度はツグミが同じように他の鳥を追い回すといった具合です。そのような状況でも、ヒヨドリは強い方なので、営巣・産卵ができたのだと思います。この卵は有精卵でしたが、残念ながら途中で発生が止まってしまいました。

そこで昨年(1993年)、ヒヨドリだけのスイートホームを用意し、繁殖に備えました。5月下旬より営巣行動がみられ、ケージ内の植え込みの中に巣をつくりました。6月5日には巣の中に卵が4個あることを確認、親が熱心に抱卵していました。そして6月18日、待ちに待ったヒナが2羽孵化しました。



親鳥には固形飼料を水で戻したものと、ミルワーム(甲虫の幼虫)を与えていますが、孵化したばかりのヒナに、親がそれを食べさせるだろうかというのが一番の心配で、脱皮したばかりのミルワームやクモ、アオムシなどを捕まえてきて与えてみました。すると親はそれをヒナに運び、ヒナも喜んで食べていました。給餌はオスとメスが協力して行い、交互に餌を口にくわえてはヒナの所に運んでいました。ヒナの食欲は旺盛で、脱皮直後のミルワームが足らなくなり、仕方なくビタミン液の中に一晩漬けて柔らかくしたミルワームを与えたところ、この餌もよく食べてくれ、6月30日には巣を離れ、その後も順調に成長し、現在ではもう親鳥と区別できないくらいです。この繁殖成功は日本で初めての記録ですので、日本動物園水族館協会から繁殖賞を授与される予定です。







小さな疑問から大きな疑問まで、『げんちゃんの追球コーナー』へどんどんお送り下さい。採用させていただいた方には、旭山動物園特製「エゾシカの角のキーホルダー」をプレゼントいたします。

**Q** カバはなぜ水の中が好きなのですか？  
旭川市 岡田美智子さん



**A** カバは水の中が好きだから水の中にいるわけではなく、水の中での生活に適応してカバという動物になったので、それで水の中にいるのだと思います。例えばヒトの子供に「君は水遊びが好きだね」と言うのはわけが違います。でも、確かにカバは水の中にいる時はのんびりとして見えます。どうしてでしょう？

カバは陸生哺乳類の中ではゾウに次いで重い動物です。大人のオスでは体重4トンにもなるものがあります。また大きな口に長い牙があるので、陸上にいるときでもカバを食べようと襲う動物は特別な理由がない限りいません。まして水の中です。ワニでは小さすぎて話になりませんから、敵はいないといっているでしょう。水の中にいる時のカバが楽しそうに見えるのはビクビクしていないからでしょう。

ついでにカバの生活ですが、カバは日中は水の中にいたり、水辺で日光浴をしています。食事は日が暮れてから陸上で草を食べます。餌は陸上で食べなければならないので、完全に水中での生活に適応したとは言えません。餌も水中で取るようになった動物がジュゴンやマナティーで、彼らはゾウに近い仲間です。

カバやゾウは動物園でも人気がありますが、彼らは形態的には原始的で、消化効率は悪いくせに大きくて、たくさんの餌を食べます。地球がもっと温暖だった数万年前までは世界中にたくさんの仲間がいました。現在ではほんの数種類が一部の地域で生活しているにすぎません。進化的にみると、彼らはやがて減少していく運命の動物といえるかも知れませんが、現状では人間による環境破壊の影響が大きいと思います。

## クイズ

3枚の写真はある動物の体の一部です。  
私は誰でしょう？

正解者の中から抽選で3名の方に旭山動物園特製「エゾシカのキーホルダー」が当たります。

**応募方法** ハガキに答えと住所、氏名、年齢、電話番号を書いて旭山動物園モユク・カムイ係までお送り下さい。

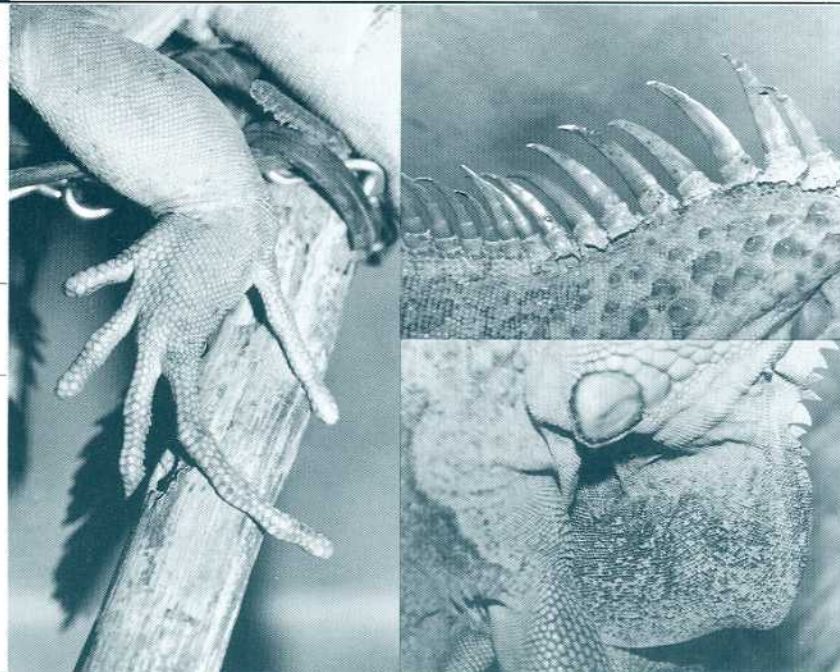
**応募〆切** 1999年3月31日

## 前号のこたえ

正解はオシドリでした。  
正解者は、なんと1名でした。

**キーホルダー当選者**

旭川市 佐藤 かやみ さん



## 飼育日誌 《平成5.10.4～平成6.2.1》

- 10. 4 ダチョウ 旭山動物園で初繁殖に成功
- 10. 5 ZOOガイド「当麻小学校」
- 10. 6 エゾシカの角にホースを装着
- 10. 7 ZOOガイド「ねむのき保育園」
- 10.10 ZOOガイド「エステート町内会」
- 10.13 ZOOガイド「こぐま保育園」
- 10.15 ダチョウ 2羽目繁殖
- 10.17 '93さよならウォークラリー大会 平成5年度閉園
- 10.18 ワピチ運動場整備のため室内へ移動  
♂麻酔下で角切り
- 10.20 ゴリラ(♂ゴンタ)脳血管障害で倒れる
- 10.27 ZOOガイド「占冠中学校」
- 10.29 ZOOガイド「春光台中学校」  
ZOOガイド「旭川教育大学附属中学校」
- 11.23 アヒル正面入口に捨てられる
- 11.25 日本動物園水族館協会・北海道ブロック飼育技術者研究会(秋期 於:登別~26)「チンパンジーの遊具使用について」高橋
- 11.29 エゾリス♂1頭 秋田市大森山動物園へ
- 12. 1 日本動物園水族館協会 (~3) 第41回動物園技術者研究会  
於:アドベンチャー「フクロウ10種の核型比較について」坂東「コノハズクの繁殖について」坂野
- 12.11 グリーンイグアナ下顎部に腫瘍 入院
- 12.13 クモザル 風邪 投薬
- 12.20 ヒョウ、クマ、オオカミ 全頭駆虫
- 12.21 ウンピョウ 健康診断
- 12.27 シロテテナガザル(♀コシ) 蟻虫症で死亡
- 12.28 サル舎 全頭駆虫
- 12.30 ゴリラ 麻痺していた右手でドアを叩く  
ケアシノスリ 過長嘴 短切
- 1.18 ゴマフアザラシ(♀モコ) 入院
- 1.20 ゴリラ(♂ゴンタ) 3ヶ月経過  
右手で白菜を持つまで回復-完全復活か?
- 1.23 ニホンザル(♂ジジ:開園以来の老雄) 死亡
- 1.29 ZOOガイド「旭川小学校」
- 1.30 冬の動物園観察会(1回目-通算11回目)
- 2. 1 ZOOガイド「愛別海洋センター」

## 飼育動物数

(4月1日現在)

哺乳類	40種	139点
鳥類	89種	465点
爬虫類	12種	39点
合計	141種	643点

## お知らせ

### ◎モユク・カムイの申し込み方法

1年分の送料として130円分の切手4回分を同封して、旭川市旭山動物園モユク・カムイ係までお申し込みください。



このトリはだれかな？



## 編集後記

「暖冬」が普通となった旭川ですが、今年はすっかり元に戻ってしまいました。雪も平年よりはずっと多く、動物園もすっぱりと雪に埋もれてしまいました。お陰さまで道路の確保や屋根の雪下ろしに汗だくの毎日、とても健康的な冬を過ごさせてもらっています。

閉園ころに孵化したダチョウのヒナは見違えるばかりに大きくなり、今では頭の高さが1メートル60センチにもなりました。成長の早さは足の速さ以上の驚きです。また、ご心配をおかけしておりますゴンタですが、麻痺しておりました右手や口の動きもかなり回復し、われわれも一安心しているところです。

動物たちも元気に春の訪れを待っております。今年の閉園は4月29日(金)ですので、またお会いできることを楽しみにしております。





ゴマフアザラシ

モユク・カムイ No.35 平成6年2月25日

発行所 旭川市旭山動物園 〒078 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104  
発行 菅野 浩 編集委員 小菅 正夫・阿部 寛・坂東 元  
印刷 谷川印刷株式会社 〒070 旭川市旭町1条4丁目 ☎0166-51-0653